

Ⅱ. 研修内容に関すること

1. 研修期間 (12) か月

2. 研修プログラム

時期 (月) ※1	研修テーマ	形式※2 (該当項目に○を付けて下さい)		研修場所 (※3)		時間数	研修内容
		講義	演習				
4月	看護記録の基礎と電子カルテについて	○	○	部署外	会議室	4	看護記録基準、看護記録の目的・原則、一般的知識、看護記録の見方、看護記録の入力方法、電子カルテのシミュレーション、電子カルテ使用時の注意事項
4月	感染防止技術	○	○	部署外	会議室	8	・スタンダードプリコーションについて、マスク装着、手洗い方法、防護用具について、針刺し事故防止及び血流感染時の対応、感染マニュアルについて（上記項目について講義と演習を行う）、 ・洗浄・滅菌・消毒については講義と中央材料室を見学する
4月	日常生活援助技術	○	○	部署内	病棟	32	環境整備技術、食事援助技術、排泄援助技術、清潔援助技術について4日間病棟で現任教育を行う。その後事例を通してのレポートを提出。
4月	与薬技術援助	○		部署外	会議室	8	与薬方法の実際について講義（経口与薬、坐薬、軟膏、湿布、などの方法）、特殊管理薬品の取り扱い（向精神薬・劇薬・毒薬・筋弛緩薬）、誤薬防止、注射管理に関すること（輸液の目的、適応、確認方法、輸液の実際、輸血・血液製剤）
4月	ME器機について	○	○	部署外	会議室	3	ME器機の取り扱いについての講義（種類、目的、操作方法、使用上の注意事項、故障時の対応、保管場所、管理）、主なME器機の取り扱い（パルスオキシメーター、輸液ポンプ、シリンジポンプ、心電図モニター）
4月	注射・輸液管理技術	○	○	部署外	会議室	5	注射技術の講義（筋肉注射、皮下注射、皮内注射、採血、血管確保、輸液セットと三方活栓の取り扱い、アンプル注射の取り扱い）、注射・採血・血管確保・輸液セットの接続の実技演習
4月	呼吸・循環を整える技術	○	○	部署外	7階病棟	4	酸素吸入、酸素ポンベの取り扱い、パイピングについて、吸引技術、体位ドレナージ、吸引（口腔内・気管内吸引）の講義と演習
4月	トランスファ	○	○	部署外	7階病棟	2	移乗の基本原則、実際の移乗介助技術、車椅子・ベッドからの移乗介助の演習
4月	看護倫理	○	○	部署外	会議室	2	看護者の倫理綱領について講義、事例についてのグループワーク
5月	フレッシュマンのキャリア形成サポート	○		部署外	看護協会	6	看護を取り巻く動向や看護協会の組織機能／先輩看護師から新人へのメッセージ／認定看護師の看護スピリット
5月	夜勤について	○	○	部署外	会議室	4	夜勤の業務内容、看護体制、勤務時間、夜勤の流れ、夜勤のメンバーシップ、報告・連絡・相談、急変時の役割、救急カートの説明、体調管理
5月	BLS研修	○	○	部署外	会議室	4	一次救命処置、気道の確保、人工呼吸、心臓マッサージ、AEDの使用法、Drコールの方法
5月	褥瘡処置	○	○	部署外	会議室	4	褥瘡処置の基本的知識、褥瘡の分類、徐圧の方法、ポジショニング、褥瘡評価の方法（DESIGN）、褥瘡処置、低圧持続吸引、ラップ療法、ケア方法の演習
6月	インスリン製剤に関すること	○	○	部署外	会議室	4	インスリン製剤の種類、作用、副作用、低血糖について、血糖測定、針刺し事故防止について、廃棄方法について
6月	創傷処置・包帯法	○	○	部署外	会議室	4	創傷の分類、創傷の治癒過程、感染徴候、観察方法、ドレーン管理、排泄の観察、ドレーンの固定方法、ドレッシング、消毒、洗浄方法、テープの貼り方、包帯法、三角巾固定
7月	事故防止対策（KYT）1回目	○	○	部署外	会議室	4	KYTの概念、転倒・転落のKYT、注射管理のKYT、ロールプレイ・グループワークによる演習、5Rについて、事例検討

時期 (月) ※1	研修テーマ	形式※2 (該当項目 に○を付けて 下さい。)		研修場所 (※3)		時間数	研修内容
		講義	演習				
7月	心電図	○	○	部署外	会議室	4	心電図の基礎知識、危険な不整脈、心電図モニター・十二誘導心電計の取り扱いなど講義と演習
8月	急変時の看護	○	○	部署外	会議室	4	一次救命処置(BLS)、二次救命処置(ALS)、急変時の応援体制、止血処置、包帯法について講義と演習
8月	中心静脈注射の管理、感染防止対策	○	○	部署外	会議室	4	中心静脈注射の流れ、準備、介助方法、固定方法、観察、感染防止対策、血流感染防止対策
9月	理想の看護師像と自己の将来像について	○		部署外	会議室	4	自己の将来の看護師像、理想の看護師像についてグループワーク、コミュニケーションの方法について
9月	フィジカルアセスメント	○	○	部署外	会議室 病棟	24	フィジカルアセスメントの基礎知識、コミュニケーションスキル、情報の取り方、問診について、胸部・腹部・四肢・神経フィジカル、聴診・打診・視診・触診の演習。ベッドサイドでの事例を通しての実践とアセスメント
10月	麻薬・血液製剤について	○		部署外	会議室	4	麻薬の種類、作用、副作用、取り扱い、使用時の観察と記録、輸血・血液製剤の種類・目的・作用・副作用について講義
10月	緩和ケアについて	○		部署外	会議室	4	緩和ケアの概念、疼痛苦痛の緩和について、リラクゼーション、精神的ケア、不安の緩和について
10月	ローテーション研修		○	部署外	病棟	80	配属部署では経験できない看護基本技術の見学・実践を他部署で2週間行う。自己の未達成技術を中心に実践する。
11月	記録について	○		部署外	会議室	4	看護過程に沿った看護記録、記録監査について事例検討、グループワークを行う。また、記録に於ける倫理的配慮について考える。
11月	ケースカンファレンスについて	○	○	部署外	会議室	4	ケースカンファレンスの目的・進行方法・役割り・事例検討の進め方、文献検索の方法について講義、事例をまとめグループワークしカンファレンスを行い、各自の意見を述べる。
12月	多重課題		○	部署外	7階病棟	8	時間切迫、業務割り込みなどの多重課題の状況下での優先順位を決定するシミュレーション研修を行う。日常業務のなかで自己の傾向と課題を振り返る。
1月	人工呼吸器	○	○	部署外	7階病棟	4	人工呼吸器の基礎知識、適応、合併症、注意事項、使用中の看護ケア、観察、人工呼吸器の回路接続、点検、アラームについて
3月	事故防止研修 KYT研修 2回目	○	○	部署外	会議室	4	臨床現場における自己の行動を振り返り、事故防止の基本的行動が取れるか検証する。多重課題の研修や現状を振り返りながら自己の課題を明らかにする。

※1 時期には実施月をご記入ください。

※2 形式には講義・演習の当てはまる方に○を記入して下さい。両方に○を記入しても差し支えありません。

※3 新人自身が所属する部署の場合「部署内」、自身の所属する部署以外の場合「部署外」と記入して、さらに、具体的な場所を記入して下さい。

※4 行が不足した場合、適宜追加してご記入ください

3. 研修の指導体制の詳細(各看護単位、看護部門)

各看護単位(プリセプター制) : 現任教育はプリセプター・実地指導者と部署の教育担当者を中心として行う。
新人指導の進捗状況の確認を教育委員会で定期的に行い情報交換を行う。

看護部門 : 各部署のスタッフや主任・師長から構成される看護部教育委員会において、年間の新人の集合教育を企画・運営・評価する。
また、研修責任者として看護部に専任の教育担当師長1名を配置している。

4. 各看護単位では経験できないが、新人看護職に必要な知識・技術の修得方法

- ① 集合教育による講義と演習
- ② ローテーション研修により他部署で実地研修
- ③ 院外の研修会の活用

5. 経験できる技術が少ない場合の工夫

定期的に看護技術修得状況をチェックし、所属部署の教育担当者に確認。経験が困難な場合は、一定期間他部署で実地研修をおこなう。

Ⅲ. 新人看護職員の到達度等の評価に関すること

1. 評価時期(自由にご記入ください)

- ① 入職3ヶ月 (6月)
- ② 6ヶ月 (9月)、
- ③ 10ヶ月 (1月)、
- ④ 1年6ヶ月後(翌年9月)

2. 評価者(自由にご記入ください)

- ①新人看護職員(自己評価) ②プリセプター(他者評価) ③師長、主任(最終確認)
- ①、②で自己評価と他者評価を行い、所属長が最終確認を行う。

3. 評価方法(自由にご記入ください)

I ~IVの4段階評価(厚生労働省の新人看護職員研修ガイドラインに準じる)	
I 一人で出来る	(指導者がいなくても自立して実施できる)
II 1回以上の経験を有し、指導の下で出来る	(模倣)
III 演習でできる	(所属部署及び集合教育での演習)
IV 知識としてわかる	(見学のみ、集合研修のみ)
未 未経験	(研修していない、受講していない)

IV. 指導者等の育成に関すること

1. 実地指導者の育成に関する取り組み(研修の実施等)について(自由にご記入ください)

院外研修 : 新人看護職員実地指導者研修(沖縄県看護協会)への参加
院内研修 : 「プリセプター制度について」研修 4月、プリセプター会でのフォローアップ(年3回)
院内研修(クリニカルリーダーⅡ、Ⅲ) : リーダーシップ研修、急変時の看護

2. 教育担当者の育成に関する取り組み(研修の実施等)について(自由にご記入ください)

院外研修 : 「新人職員の研修にどう取り組むか」(日本看護協会出版会全国セミナー)
院内研修 : メンターシップ、コーチング研修、接遇研修、事故防止対策研修(KYT)、急変時看護
院内研修 : 記録について

V. 事業の評価等に関すること

1. 事業の実施にあたって工夫した点(自由にご記入ください)

新人看護職員研修において昨年の振り返りで変更・工夫したのは、3点である。

①専任の教育担当者を看護部に配置

②新人職員対象に2週間のローテーション研修(10月～11月)を実施した

③年間研修の回数を増やし事故防止対策(KYT)の研修を年2回実施し、年度末の3月まで毎月1～2回新人が集合教育で顔を合わせコミュニケーションが取れるようにした。

また、新人看護職員の育成に看護部全体で関われるように、教育委員のメンバーだけでなく、研修内容を安全・感染・記録・褥瘡など各委員会も関わる内容としている。看護部の教育委員会で進捗状況を確認し情報交換を行っている。会議で「新人看護職員研修ガイドライン」に沿って定期的に技術チェックを行い、到達状況を会議などで報告している。所属部署により到達状況や経験内容に偏りが発生することが予測されたため、今年度から他部署での2週間のローテーション研修を実施し、新人看護職員と受け入れ部署を含む他部署へアンケートを行い、研修後の評価を行った。その他、近隣施設の新人看護職員への公開研修として「フィジカル研修」を行った。

2. 事業の効果および評価に関すること(自由にご記入ください)

上記項目で述べた内容により新人看護職員全体の状況を把握し、進捗状況を確認しながら看護部全体での取り組みが行いやすくなった。ローテーション研修を行ったことにより、新人看護職員がいない部署も新人看護師の指導に関わることができ、各部署との連携がとれ他部署の新人看護師への関心度も高まった。また、ガイドラインに沿った研修内容と到達目標を基に定期的に評価することで実践能力の到達状況を把握しやすくなっている。集合教育や現任教育の評価を行い、今後の課題も共有することができた。